

NISSIN SERVICER
IR PERSONALITY

第7期 中間報告書

平成19年4月1日 ▶ 平成19年9月30日



代表取締役社長
 合 田 益 己
ごう だ ま す み

ご挨拶

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

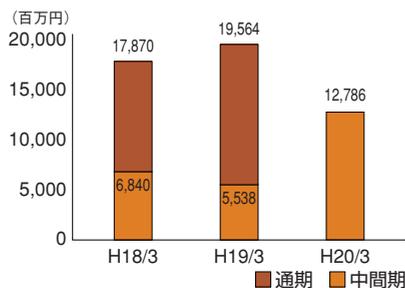
第7期中間報告書をお届けするにあたり一言ご挨拶申し上げます。

当中間期における当社グループは、主に地方銀行からの債権買取、外資サービサー2次譲渡、共同投資等による債権投資により、前年を上回る投資実績をあげることができました。また、業績面におきましては、下期に予定しておりましたNISグループ各社との新規ビル開発プロジェクト(3、4ページ参照)の進捗が早まったことにより、当初の中間期計画を大幅に上回る実績を計上することができました。

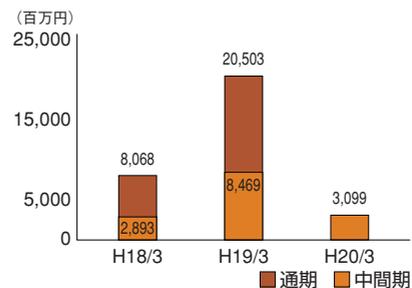
なお、通期の業績につきましては、現在のところ当初計画に変更はございませんが、公約である配当性向30%を堅持しながら、利益の拡大による実質増配を実現できるよう全社一丸となって目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業へのご理解とともに、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

債権買取額(投資額)



不動産買取額(投資額)



連結業績概要

当中間連結会計期間につきましては、金融機関との継続取引および新規取引の開拓につとめました結果、債権買取額(投資額)は12,786百万円(前年同期比130.9%増)、買取債権残高は34,794百万円(前期末比10.4%増)となりました。また不動産買取額(投資額)は3,099百万円(前年同期比63.4%減)、買取不動産残高は19,577百万円(前期末比0.7%増)となりました。

営業収益につきましては、大型案件の回収進捗等により買取債権回収高は12,584百万円(前年同期比47.2%増)、買取不動産売却高は3,520百万円(同53.6%増)、冒頭の社長挨拶にもごさいますようにNISグループによる新規ビルプロジェクトの進捗に伴う出資収益等が計上されたことにより、その他収入3,817百万円(同210.5%増)となり、合計では19,922百万円(同65.0%増)となりました。

営業費用につきましては、買取債権回収高の増加に伴う債権回収原価8,973百万円(前年同期比55.9%増)、不動産売却に伴う買取不動産売却原価3,096百万円(同161.9%増)となり、その他原価57百万円を合わせ合計では12,127百万円(同74.3%増)となりました。この結果、営業総利益は7,795百万円(同52.3%増)となりました。

販売費および一般管理費につきましては、主に給与手当334百万円(前年同期比19.5%増)、貸倒引当金繰入額903百万円(同29.8%増)、債権回収費用457百万円等を計上し、合計2,719百万円(同45.8%増)となりました。この結果、営業利益は5,075百万円(同56.1%増)となりました。

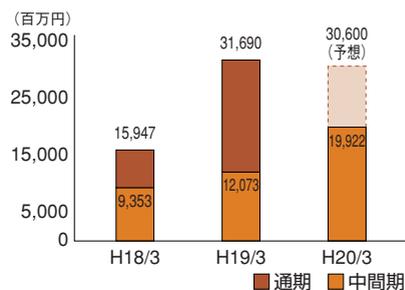
営業外収益は22百万円(前年同期比73.2%減)となり、営業外費用につきましては、主に資金調達に伴う支払利息609百万円(同89.5%増)等により、合計で662百万円(同86.8%増)となりました。この結果、経常利益は4,436百万円(同48.7%増)となりました。

また、特別利益6百万円、法人税関連費用1,927百万円(前年同期比77.1%増)、少数株主利益56百万円(同87.4%減)の計上により、当中間期純利益は2,458百万円(同70.3%増)となりました。

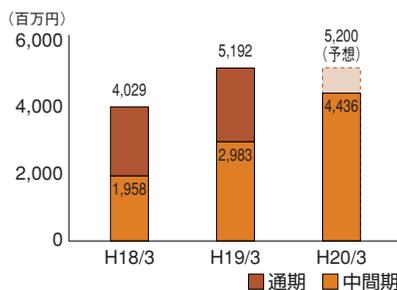
通期の見通しについて

通期の業績につきましては、概ね当初計画どおりに推移しているため、平成20年3月期(平成19年4月1日から平成20年3月31日)の連結業績予想の修正はありません。なお予想数値につきましては、下欄のグラフをご参照下さい。

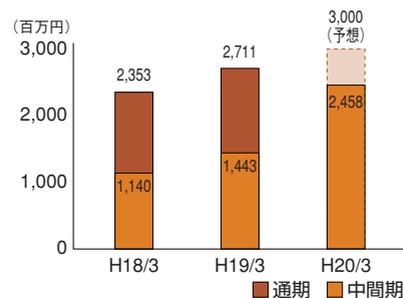
連結営業収益の推移



連結経常利益の推移



連結中間(当期)純利益の推移



ビッグプロジェクト！ 大型複合商業ビルの開発を推進

人口17万5千人、多摩地域の中心都市の一つである東京都立川市。

ターミナル駅としてJR中央本線など3線が乗り入れる立川駅前に、NISグループの協業案件として開発が進められた大型商業施設「NIS WAVE. I (エヌ・アイ・エス・ウェーブ・ドット・ワン)」がついに竣工。当社子会社ジェイ・ワン・インベストメンツは、プロジェクトの成否を握る重要な役割を果たしました。



NISグループによる過去最大の 商業施設プロジェクト

不動産流動化事業の一環として取り組まれた「NIS WAVE. I」は、NISグループの開発による商業施設としては、過去最大規模の案件です。本件は、当社子会社である有限会社ジェイ・ワン・インベストメンツをはじめ、NIS不動産株式会社、NISリース株式会社など、各社の協業により実現した、総合金融サービスを提供するNISグループならではのプロジェクトと言えます。

ジェイ・ワン・インベストメンツが設立したSPC(特別目的会社)を通じて物件を購入し、開発型ノンリコースローンおよび信託スキームの活用により開発・運営。建物は2007年6月27日に竣工し、テナントリーシングを経て、2007年9月21日に本件土地建物に係る信託受益権の譲渡契約(譲渡金額約140億円)を締結しました。

グループ各社の専門性をフルに発揮した協業スキーム

この「NIS WAVE. I」の開発においては、プロジェクト構造の中でNISグループ各社が有する専門性がフルに発揮され、成果を上げました。

当物件についての所有地売却に関する情報については、まずジェイ・ワン・インベストメンツがキャッチし、調査に着手。開発全体のプロジェクト・マネジメントを行うNIS不動産とともに、物件購入に向けた取得スキームを検討し、SPCの設立・出資により購入および信託を実施。そして、開発型ノンリコースローンを導入し、SPCを通じてビルを開発・運営していきました。また、テナントについては、NISリースによるテナントリーシングが行われ、入居テナントの募集・契約が進められました。

地上8階・地下3階の空間に「食・遊・美・健」を用意

こうして完成した「NIS WAVE. I」は、すでに物販、飲食、美容サービスなどの入居テナントが順次営業を開始しており、2008年1月にグランドオープン予定です。

地上8階・地下3階の建物は、JR立川駅と多摩都市モノレール立川北駅をつなぐ歩道橋（ペDESTリアンデッキ）と2階部分で直結しており、土日だけでなく平日も賑わいをみせる2駅間の導線上の好立地。上質感・高級感を提供する「食・遊・美・健」を兼ね備えた都会的な複合商業施設として、地元から大きな期待が寄せられています。

当社は今後とも、NISグループとの連携による不動産関連事業に注力し、さらなる事業の多角化と収益源の多様化を図っていきます。



NIS WAVE. I

所在地 東京都立川市曙町二丁目4番5号

交通アクセス JR中央線・南武線・青梅線 立川駅より徒歩1分
多摩都市モノレール 立川北駅前

構造その他 敷地面積 1,239.61m²
延床面積 11,551.40m²
地上8階・地下3階建
店舗数約16店

グランドオープン 2008年1月予定

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

区 分	前連結会計年度末 (平成19年3月31日現在)	当中間連結会計期間末 (平成19年9月30日現在)
【資産の部】		
流動資産	55,700	58,502
現金および預金	5,750	4,508
買取債権	31,508	34,794
買取不動産	19,439	19,577
繰延税金資産	892	1,297
その他	755	1,440
貸倒引当金	△2,645	△3,116
固定資産	6,769	6,486
有形固定資産	30	31
無形固定資産	8	7
投資その他の資産	6,729	6,448
資産合計	62,470	64,989
【負債の部】		
流動負債	30,617	32,864
短期借入金	14,171	14,108
1年内返済予定長期借入金	13,412	14,936
1年内償還予定社債	160	160
未払法人税等	1,309	2,343
賞与引当金	—	67
役員賞与引当金	19	7
その他	1,545	1,240
固定負債	22,094	19,910
社債	380	800
長期借入金	21,713	19,109
その他	1	0
負債合計	52,711	52,774
【純資産の部】		
株主資本	8,561	10,596
資本金	1,731	1,736
資本剰余金	1,517	1,522
利益剰余金	5,313	7,338
評価・換算差額等	△0	△0
繰延ヘッジ損益	△0	△0
新株予約権	114	107
少数株主持分	1,082	1,511
純資産合計	9,758	12,215
負債および純資産合計	62,470	64,989

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

営業資産について

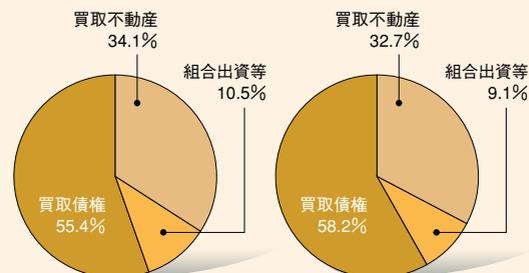
買取債権への投資が前年同期と比べ大幅に増加したことから、当中間期の営業資産は前期末に比べ、2,883百万円増加しました。

H19/3

合計 56,943百万円

H19/9

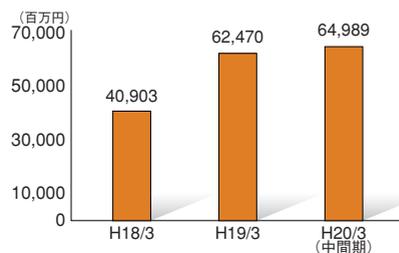
合計 59,826百万円



有利子負債について

当中間期の有利子負債合計は、前期末比1.5%減の49,114百万円、期末加重平均調達金利は2.7%(前期末2.5%)と上昇いたしました。

総資産の推移



中間連結損益計算書

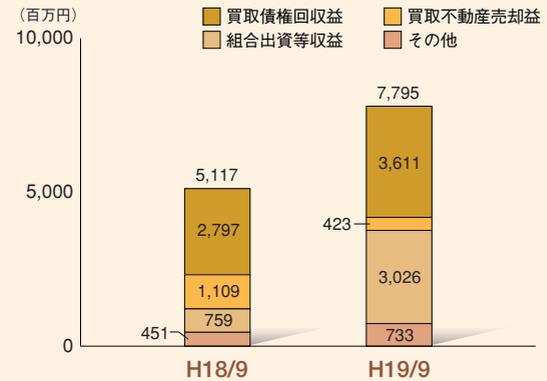
(単位：百万円)

区分	前中間連結会計期間 (自 平成18年4月 1日 至 平成18年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成19年4月 1日 至 平成19年9月30日)
営業収益	12,073	19,922
買取債権回収高	8,552	12,584
買取不動産売却高	2,292	3,520
その他	1,229	3,817
営業費用	6,956	12,127
債権回収原価	5,755	8,973
買取不動産売却原価	1,182	3,096
その他原価	19	57
営業総利益	5,117	7,795
販売費および一般管理費	1,865	2,719
営業利益	3,251	5,075
営業外収益	85	22
営業外費用	354	662
経常利益	2,983	4,436
特別利益	—	6
税金等調整前中間純利益	2,983	4,442
法人税、住民税および事業税	1,140	2,329
法人税等調整額	△52	△402
少数株主利益	451	56
中間純利益	1,443	2,458

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

営業総利益について

新規ビル開発の進捗に伴い、組合出資等収益の比率が増加しております。



主要な経費について

- ①給料手当(賞与含)334百万円(前中間期280百万円)
営業・管理部門を中心に人員が増加しております。
従業員数 H18/9 80名→H19/9 101名
- ②貸倒関連費用903百万円(前中間期697百万円)
貸倒引当率 H18/9 8.2%→H19/9 9.0%
- ③その他、大型案件の債権回収費用として370百万円を計上しております。

支払利息について

有利子負債の増加に伴い、支払利息は609百万円(前年同期比89.5%増)となりました。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

区 分	前中間連結会計期間 (自 平成18年4月 1日 至 平成18年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成19年4月 1日 至 平成19年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△8,359	△3,734
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,552	3,272
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,662	△1,177
現金および現金同等物の増加額	1,855	△1,639
現金および現金同等物の期首残高	2,264	5,390
新規連結に伴う現金および現金同等物の増加	213	—
現金および現金同等物の中間期末残高	4,333	3,750

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

営業活動によるキャッシュ・フローについて

主に買取債権に係る資金の純減額が3,813百万円(前年同期は216百万円の純増)、法人税等の支払額が1,291百万円(前年同期比72百万円減)となったことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローについて

主に匿名組合出資金に係る資金の純増額が2,750百万円(前年同期は3,134百万円の純増)、投資有価証券に係る資金の純増額が646百万円となったことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローについて

主に短期借入金の純減額が63百万円(前年同期比2,388百万円減)、長期借入金の純減額が1,079百万円(同7,958百万円減)となったことによるものであります。

中間連結株主資本等変動計算書 当中間連結会計期間 (自平成19年4月1日至平成19年9月30日)

(単位:百万円)

	株主資本				評価・換算差額等		新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計			
平成19年3月31日現在	1,731	1,517	5,313	8,561	△0	△0	114	1,082	9,758
中間連結会計期間中の変動額									
新株の発行(新株予約権の行使)	5	4	—	10	—	—	—	—	10
剰余金の配当	—	—	△433	△433	—	—	—	—	△433
中間純利益	—	—	2,458	2,458	—	—	—	—	2,458
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	0	0	△6	428	422
中間連結会計期間中の変動額合計	5	4	2,024	2,034	0	0	△6	428	2,456
平成19年9月30日残高	1,736	1,522	7,338	10,596	△0	△0	107	1,511	12,215

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

機関投資家・アナリスト向け中間決算説明会を開催

平成19年11月9日に東京証券取引所において、機関投資家およびアナリスト、金融機関の方々を対象とした中間決算説明会を開催いたしました。

当日は約80名の方にご参加いただき、代表取締役社長の合田益己による中間決算の概要・通期見通しおよび今後の事業戦略についてご説明させていただきました。

なお、説明会の模様は当社のホームページ上にて、動画配信を行っておりますので是非ご覧下さい。(http://www.nissin-servicer.co.jp)

また説明会資料のご請求およびご質問等ございましたら、経営管理部経営企画課までお問い合わせいただきますようお願い申し上げます。



ご連絡先

経営管理部経営企画課

TEL
03-5326-3971

FAX
03-5326-8407

e-mail
info-ir@nissin-servicer.co.jp

多くのご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

本誌前号(第7期第1四半期報告書)において実施させていただいた株主様アンケートに、平成19年11月1日現在1,283通のご回答をいただきました。誠にありがとうございました。

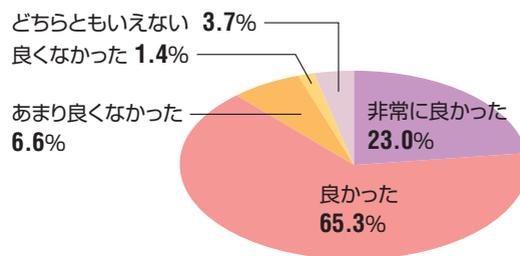
集計では、第1四半期報告書の内容について、8割を超える皆様から「非常に良かった」ないし「良かった」とのご感想をお寄せいただきました。特に、「トップインタビュー」の内容を評価された方が6割と高く、「インタビューにわかりやすく答えていて良かった」「株主として気になっていた件について回答があった」「新社長に期待したい」といった具体的な声を多数ご記入いただきました。

また、報告書の内容へのご要望として、「関係会社についても誌面で紹介してほしい」「株主アンケートを継続的に実施してほしい」「中長期目標の進捗を四半期で報告してもらいたい」との声が寄せられています。今後の誌面充実における課題として検討させていただきます。

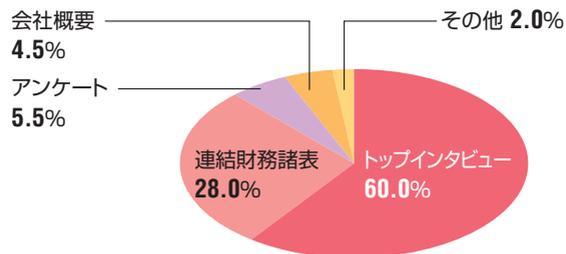
当社に対するご意見・ご要望の記入欄には、「トップインタビュー」で社長からも言及があった「東証1部市場への鞍替え」へのご期待が多く見られ、その他には、「株価対策」「地方でのIR活動」「配当性向30%の維持」など、さまざまな声が寄せられました。

当社は、いただいた貴重なご意見を経営に活かし、株主重視経営による事業の発展を通じて、皆様のご期待にお応えしてまいります。

今回の第1四半期報告書をお読みいただき、どのような感想をお持ちになりましたか？



そのように感じた項目をご記入下さい。



株式の状況

(平成19年9月30日現在)

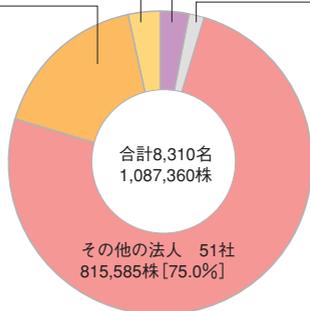
発行可能株式総数	3,200,000株
発行済株式の総数	1,087,360株
株主数	8,310名

株式の分布状況

(平成19年9月30日現在)

所有者別

外国法人等 48社 37,061株 [3.4%]	金融機関 9社 33,014株 [3.0%]
個人その他 8,179名 184,224株 [17.0%]	証券会社 23社 17,476株 [1.6%]



大株主

(平成19年9月30日現在)

	所有株数(株)	持株比率(%)
NISグループ株式会社	800,000	73.6
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	23,815	2.2
天野 量公	12,000	1.1
ユナイテッド ネーションズ、フォーザ ユナイテッド ネーションズ ジョイント スタッフ ペンション ファンド ア ユーエヌオーガン	8,587	0.8
合田 益己	6,640	0.6
日興シティグループ証券株式会社	6,432	0.6
野村證券株式会社	5,359	0.5
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4)	5,050	0.5
寄岡 正一	4,440	0.4
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウント ジエイビーアールティ アイエスジー エフイー・エイシー	4,128	0.4

● 株主様アンケートにご協力をお願いいたします。

当社では、本誌「IR PERSONALITY」を株主の皆様と当社を結びコミュニケーションツールとして活用してまいりたいと存じます。同封のアンケート葉書を通じて、株主の皆様のご意見をお寄せ下さい。お寄せいただいた内容は、今後の経営および「IR PERSONALITY」の誌面作成に活かしてまいります。

アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で1,000名様に図書カード(500円)を進呈いたします。

(締切：平成20年2月29日(金) 当日消印有効)

● 個人情報の取り扱いについて。

当アンケート葉書にご記入いただきました個人情報については、その使用目的を次の3つの事項に限定し、他の用途に使用することは決してございません。

また、情報の管理については十分に注意いたします。

- ① アンケートご回答の分析
- ② 図書カードの送付
- ③ 個人株主様あてIR活動に関するお知らせの送付

会社の概要

(平成19年9月30日現在)

商号	ニッシン債権回収株式会社 (NISSIN SERVICER CO., LTD.)
設立	平成13年7月11日
本社	東京都新宿区西新宿1丁目25番1号 新宿センタービル8F TEL.03-5326-3971(代表)
営業許可	平成13年10月25日(法務大臣許可番号第58号)
資本金	17億3,607万円
従業員数	101名

役員

(平成19年9月30日現在)

代表取締役社長兼執行役員	合田 益己
常務取締役兼執行役員	山口 達也
取締役兼執行役員	森泉 浩一
取締役兼執行役員	豊嶋 秀直 (弁護士)
取締役	清水 克敏
取締役	寄岡 秀夫*1
常勤監査役	森田 昌弘
常勤監査役	大森 廣行
監査役	吉本 修二*2
監査役	山田 啓之*2
執行役員	土居 昭広
執行役員	伊藤 正男
執行役員	瀬戸 正光

*1 取締役寄岡秀夫は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

*2 監査役吉本修二および山田啓之は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 中間配当 9月30日 期末配当 3月31日
株式の売買単位	1株
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社

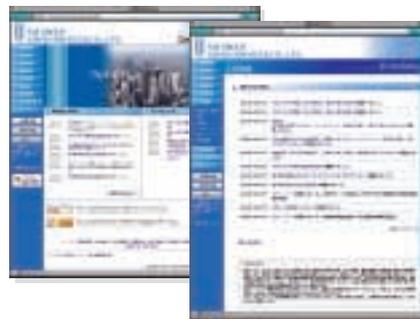
関係会社一覧

(平成19年9月30日現在)

連結子会社	有限会社ジェイ・ワン・インベストメンツ 有限会社ミヤコキャピタル 有限会社ジェイ・ツー・中国投資 他22社
関連会社	有限会社シー・エヌ・キャピタル 有限会社シー・エヌ・ツー 有限会社シー・エヌ・スリー 有限会社シー・エヌ・フォー 有限会社シー・エヌ・インベストメンツ ストラテック株式会社 他4社
親会社	NISグループ株式会社 (ニューヨーク上場NIS・東証一部8571)

ホームページ

<http://www.nissin-servicer.co.jp>



同事務取扱場所	〒135-8722 東京都江東区佐賀1丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL.0120-288-324
同取次所	みずほ信託銀行株式会社全国各支店 みずほインベストアーズ証券株式会社本店 および全国各支店
公告の方法	電子公告により行います (http://www.nissin-servicer.co.jp)

【将来予測に関する記述について】 本資料には、当社グループの意図、信念、現在および将来の予測、または連結、個別の業績、財務状況に関する経営陣の意図、信念、現在および将来の予測に関する記述が収録されており、記載されている歴史的事実以外の将来に関するすべての記述につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測であります。かかる将来予測に関する記述は、将来の業績を保証するものではなく、潜在的なリスクや不確実性を伴うものであり、実際の業績はさまざまな要因により将来予測に関する記述とは大きく異なる可能性がありますのでご留意下さい。なお、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。